

ニコニコボックス：

29日現在累計 210,000円

三条 南 R C 夏期交換学生受け入れ協力に対するお礼

坪井 正 康 君 （三条南RC）夏期交換学生のホームステイをお引き受けいただきました。山本、木宮会員に厚く御礼を申し上げます。

韭沢喜一郎君 ”

田中 康 雄 君 ”

米山 忠 俊 君 山上さん本日は卓話御苦勞様です。勉強させていただきます。先日25日大委員長さん大委員長会議おつかれさまでした。

久 保 博 君 干天^{カンテン}の慈雨^{ジョウ}とは良く言ったものです。昨日の雨は生き返った想いです。今朝、朝顔が清涼に咲いていました。

早川 龍 雄 君 早退します。山上さんの卓話聞けなくて残念です。

大野 新 吉 君 暑中お見舞申し上げます。本日の卓話山上先生、大変ご苦勞様です。

柄沢 憲 司 君 山上さんの卓話楽しみにしていました。

佐藤 文 夫 君 山上先生の卓話楽しく聞かせて頂きます。

卓 話： 「？」山上茂夫さん



先程、留学生のホームステイのお礼のお話がありましたが、私は小さなハゲマンです。（笑声）

今日の卓話のテーマですが、[私のことですから何が出るか判らないと言う事で、[?] マークにしてください] と言っておきました。

私がしゃべりますと堅いお話になりますので、米山さんの様に軟かい話をしたいと思っております。只、昨日ですが会議がありました。この会議は出席率が非常によかったですね…。会議はいろんな豊富な中味が論議されまして、大変勉強になりました。山席率は133%、3名の会議に4名の人が出て来ましたから…。（自分自身も会場も笑い声）吉川幹事さんも出席し、133%さすが、出席委員会だなと思いました。そのあと会議が終わっても延々と会場変更して、家に帰ったのは11時30分過ぎとなりました。そして先程もお話がありました、〇〇タクシーさんのこともあって、私も家に帰るのに「一番マナーの悪い運転手さんと呼んで呉れ」と言ったんですが、運転手さんは、マナーが良かったとみえてタクシー代は、ただにならなかった様です。（笑声）

それから卓話も、先週は出席委員会の西山さん、今週はワタクシ、多分来週は出席委員長の西村さんではないかと推測？しているところです。（笑声）

それから最近感じたことですが、殺伐とした事件が起きています。人を信用しない様な傾向が出て来て、学校ではどんな教育をしているのかなあと気にしているところです。

この間、どしゃ振りの雨の中で、小学生の女の子2人は傘をもっておりました。男の子はズブ濡れで傘をもっていません。女の子達はそれぞれ自分だけで、誰も傘をさしかけようとしません。

そこで私は車の窓をあけて、[キミ、キミ、傘を貸してあげようか]と声をかけたところ、一目散に逃げて行きました。（会場笑声、怖かったんじゃないか？笑い声づく。）

人が信頼出来ない様な世相、私は大変淋しい思いを致しました。今は人の事は人の事、自分の事は自分の事なのか、余りお節介はやかない方がいいのかなと思っています。

さて、私がロータリィ世界大会にアメリカに行って、帰って来て書いた旅行記は、今から5年位しか経っていませんが、日本程、安全なところはない、と言うことを書きましたが、今はどこへ行っても危いことばかりで、安心してられない、外国と同じ様な犯罪がありますので、今は「安全だ」とは誇れないなと思っています。

前週、今日の卓話の為に原稿用紙をあらかじめ貰いましたが、私は柵目の中に入れて行くことが苦手で、自分勝手な男ですので柵目からはみ出してしまう程大きくしか書けません。また、その時の気分で内容もどう変るか判らない、皆さんの様に学校時代にキッチリと真面目に、いい子になって勉強したのとは違って、実践の中で勉強して来ましたので、原稿なしでお話はします。ただ資料はあります。先般、相続と仕事の中で昔の運隊手牒と言うものが出て来ました。これはそのお家では貴重な宝物ですので、コピーをさせて載しました。

これは私の少年時代に関する事ですけれども少年時代の一時期と言いますが、相当長い期間を山口県下関市で過しました。ここで私の少年期について雑多にお話してみたいと考えております。

原稿ではありませんが、原稿と思って私が書いた文章を一寸、読んでみます。

毎年8月が近づくと、少年期に過した時代を思い出す。今考えればとてつもなく大きな試練を与えられた。これが私の人生のプロローグであったかも知れない。あの時代は一口で言って仕舞えば、大方の人に悪夢の様なと表現されている。

そして悪夢の内容は夢と同じに、記憶の中から消え去ろうとしている。今日の卓話では何を話そうかと、つい先刻まで纏まっていなかった。

あれこれ考えつくが、とり立てて為になる話でもない。ロータリアンの卓話としては、次元が低いかも知れないが、暫く私の生い立ち半生地の一部を象徴的に話してみよう。

どんな話にまとめられるか？は、諸兄の考え方、各人の受け取り方によって決まることだと思っている。

あらかじめ原稿を……。と言われると、この様な文体になってしまう。

「人生はドラマであり人それぞれどんなドラマが待っているかは判らない。将に人生ドラマは、多種多様で経験の一つ一つは、人生の脚本を私達が演じていることなのであります。」と言う様な堅い文章になってしまいますね…。

さて話を元へ戻しますが、私が12歳の時、父が亡くなりました。丁度中学受験のときです。私は6人兄弟がおりましたが、1人下関に残されまして初めて他人の家に預けられました。下宿ですね…。それから下宿先が疎界を致しました。またこれも私の知らないうちに寄宿舎に放り込まれました。初めて親元を放された時は、自分では判らなかったんですが、非常に淋しかったんだろうなと思います。親父が亡くなって、母親が、きょうだいが、新潟県に帰って1人ぼっちで淋しかったと思います。それから金遣いが荒くなって、こんな子供は預ってられないと思って、疎界を口実に